

小学校高学年の部 特選

「夢への階段」

和泉市立青葉はつが野小5年 藤野陽菜さん

夢をかなえるために今できることって何だろう。ヒカルが「今、世界で苦しんでいる人たちは、明日のあたしなんだ。」と、世界で起きている戦争や貧しい人のことを自分に置きかえて考え、夢や目標を決めて行動していることにドキッとした。私は夢への道のりも具体的な方法も考えたことがなかった。

「アメリカの大統領になって、戦争のない世界を作りたい。」という大きな夢を持っているヒカル。そのために一人で塾へ乗りこんで「国立中学に行きたい。」と入塾テストを受けて合格。特待生になった。自分でチャンスをつかみ、夢の計画をスタートさせている。

一方、珠子は母親のすすめで二つの塾に通っている。中学受験を決めているのに成績はいっこうに上がらない。勉強しようとする集中できずに、パンやマンガ、さいほうなど、何かを作りたくなくなってしまふ。

今の私は珠子の気持ちがわかる。そろばんを始めて七年目。教室をやめて、家でお父さんと珠算一級を練習し始めたのが一年半前。毎日練習を欠かさないけれど、思うように点数が上がらない。検定試験は三度失敗。一時期は合格点を取れていたのに長いスランプに入り、なかなかぬけ出せない。あまりに点数が上がらなくて、くやしくて全然楽しくない。やる気がなくなると練習に時間もかかるし、イヤになる。悪いことばかりだ。ふてくされる私を見て、お父さんもお母さんも、「つらいなら、やめていいよ。」と言う。落ちこんで本当にやめようかと思ったこともある。このまま練習を続けるより楽かもしれない。だけど、それは何かちがう。かんたんにはあきらめられなかった。だって珠算一級を合格することは、そろばんを始めた時からの私の目標だから。

一度は塾も受験もやめた珠子だけれど「小さなちょう戦の練習を積み重ねていけば、いつか夢がかなうような気がする。」と再び受験を決めた。珠子はがんばるヒントを自分で見つけたんだね。

この言葉は私に勇気をくれた。ヒカルのような大きな夢ではないけれど、私にも新薬の開発者になりたいという夢がある。新型ウイルスやなん病で苦しむ人のニュースを見て、将来は人の助けになる仕事がしたい、病気で苦しむ人をすくいたいと思うようになった。そんな夢に近づく一歩が私の場合は珠算一級なのかな。だとしたら、検定試験に何度か失敗したとしても落ちこんでなんかいられない。なんだかやる気がわいてきた。

夢をかなえるまでの道のりはまだまだ遠い。でもこの本から学んだのは、目の前にある小さなちょう戦を一つずつ日々ががんばること。失敗をこわがらないこと。そして、あきらめないこと。私もヒカルや珠子のように夢への階段を一步一步、上っていきたい。失敗したって顔を上げてまっすぐ進みたい。四度目の検定試験はもうすぐ。このちょう戦を必ずやりとげてみせる。（「サンドイッチクラブ」長江優子／岩波書店）